

【疾病】

2007.01.20

どうぶつ長寿時代

高齢犬の疾患傾向は人と似ている？

	8歳以上の犬 n=16,684	%
1	皮膚疾患	18.2
2	消化器疾患	12.9
3	耳疾患	9.9
4	腫瘍疾患	9.4
5	眼科疾患	9.3
6	筋骨格系疾患	8.3
7	泌尿器疾患	5.3
8	循環器疾患	5.3
9	肝胆管、膵疾患	2.8
10	呼吸器疾患	2.5
11	口腔内疾患	2.3
12	神経疾患	1.8
13	その他	12.0

	1~8歳未満の犬 n=110,208	%
1	消化器疾患	20.1
2	皮膚疾患	19.8
3	耳疾患	13.7
4	眼科疾患	8.1
5	筋骨格系疾患	7.6
6	泌尿器疾患	4.4
7	腫瘍疾患	3.1
8	呼吸器疾患	2.8
9	肝胆管、膵疾患	1.8
10	神経疾患	1.6
11	口腔内疾患	1.6
12	循環器疾患	1.4
13	その他	14.0

■ = 1~8歳と比較して発生率が3倍以上になっている疾患

■ = 1~8歳と比較して発生率が上昇している疾患

集計方法：2004年に新規・継続加入した犬の加入後1年間の請求レコードを抽出。診療開始日時点の年齢で分類し、診断名別に発症頭数を算出。同犬が複数診断名で通院した場合、それぞれの診断名ごとに1頭と計算。ただし、契約期間中に8歳の誕生日を迎えた場合、それ以降の請求は8歳以上に反映。※n=のべ発症頭数

8歳以上の犬に多く発生している疾患のなかには、人の高齢者の死亡主要原因と同様の疾患が見られる。1~8歳未満と比較すると、腫瘍疾患が約3倍、循環器疾患が3.7倍と発生率の上昇が著しい。犬の寿命も長くなっている昨今、予防や早期発見も人間同様に不可欠。元気で長生きするためには、家族がこまめにボディチェックをしたり、定期的に検診を受けさせるようにしよう！

近年、人の腫瘍疾患でも増加傾向にある乳腺腫瘍（犬の場合、8歳以上の女の子で腫瘍疾患の約1/5を占める）は、早期に避妊手術をすることで発生率を低下させられると言われている。十分な知識を持ったうえで、それぞれの家庭に合った後悔のない選択をしたい。